

## 施策 の 紹介

# 更生保護ボランティアによる地域活動の広がり

我が国の更生保護の分野においては、早くから、保護司、更生保護施設、BBS会員、更生保護婦人会員など多くの民間篤志家が活動を行ってきた長い歴史があります。そして、最近のいじめや不登校といった少年の問題の拡大・多様化に伴い、これらボランティアの活動は、保護観察への協力などの更生保護の分野にとどまらず、地域における少年の自立支援活動や子育て支援活動へと広がっております。ここでは、BBS会及び更生保護婦人会の地域活動について紹介します。

## BBS会の活動

BBSとは、Big Brothers and Sistersの略称で、非行に陥り、あるいはそのおそれのある少年のよい友達となり、兄や姉の立場から立ち直りを援助する「ともだち活動」や、非行防止活動に取り組んで

いる青年のボランティア団体です。現在、全国に約六百の地区会、約六千人の会員がいますが、その二〇％は学生が占めています。

千葉中央地区BBS会では、「社会参加活動」として二か月に一度、「アロック・プログラム」という名前で保護観察中の

少年などと千葉市内の各区を歩いて「アロック」とは、千葉市内の「六区」と「歩く」をかけたもの、種々のグループ活動を行っています。その内容は、公園での清掃奉仕活動、史跡巡り、海釣り、バーベキュー、手作りのたこ作りにたこ揚げと様々です。インパクトのある活動メニ

ューづくりに頭を痛めています。が、新しく始めた海釣りはなかなか好評でした。平成九年度には、延べ二十人の少年が参加してくれましたが、少年にとっては全く未知の体験も多かったようです。また、一緒に活動をするBBS会員と交流することで、いまままでに



草津BBS会(上)と甲西BBS会(下)が行っている「寺子屋」活動

い人間関係を体験してもらえたらと期待しています。

全国の保護観察所では、保護観察の処遇方法の一つとして、少年に奉仕活動やレクリエーション活動を直接体験させることによって、社会性をはぐくみ、社会適応を促進することを目的として、「社会参加活動」を実施していますが、

そこにBBS会員や更生保護婦人会員の協力は欠かせません。

ところで、一昨年、我が国のBBS運動は、運動発足五十周年を迎え、全国各地で記念事業が行われました。昭和二十二年、戦災孤児をはじめ、戦後の荒廃した社会の中でさまよっている少年たちと青年学徒として何かできないかという思いをつづつた一学生の投書

が機縁となつて、京都少年保護学生連盟が誕生しました。前駆的な活動は種々あつたものの、これが我が国のBBS運動の発足とされています。

発足当初から少年審判所の支援を受け、それが法務省の保護観察所に引き継がれたため、BBSは更生保護に協力する青年ボランティアと位置づけられるようになりましたが、決して保護観察所への協力活動だけではなく、児童福祉施設などへの協力活動も行っています。

長崎外国語短大BBS会では、毎週火・水・木曜日の午後七時～九時ごろまで、ボランティア家庭教師として市内の三つの児童養護施設を訪問し、児童との交流を続けています。各施設では、それぞれ四～六人の児童を対象に、会員一人ずつが主担当として勉強を教えたり、相談に乗ったりしています。主担

当が行けないときは、他の会員が代理で行くようにしています。また、主担当は六か月ごとに替わるようにしています。さらに、児童との交流会として、三つの施設の児童と会員が一緒にバス旅行に出かけました。

また、協力活動以外にも、BBS会独自に地域の子どもに直接働き掛ける活動を行っています。

滋賀県の草津BBS会及び甲西町BBS会では、平成二年からユニークな「寺子屋」活動を行っています。「寺子屋」とは、校区単位に設けられた小中学生の自主学習教室です。週に一回、午後七時から午後八時三十分まで、公民館や自治会館でBBS会員が集まってきた小中学生に対して宿題や勉強を教えたり、トランプなどで遊んだりおしゃべりをしたり、悩みごとの相談に乗ったりする中で、BBS会



宇都宮更生保護婦人会が開く「3歳児と親のふれ合いスクール」

員が子どもの健全な成長を助けていこうとする活動です。

この活動は、長年の夢がかない中学校の教師になったBBS会員の「問題があるといわれる生徒と、学校とは全く違った雰囲気話し合ったり勉強を教えたりしたい」という思いを実現する形で始められ、現在では市内三会場で実施されています。この活動により、当初荒れていた

た中学校の生徒も落ち着きを見せるようになり、最近ではいじめられっ子や不登校の子どもたちの出席が増えてきました。

日本BBS連盟では、運動発足五十周年を機に草創当時の思いに立ち返り、活動の対象を非行のある少年に限定せず、時代のニーズにこたえ、不登校やいじめなど広い意味で目の前の「さまよって

る」少年にもっと積極的にかわかっていこうとする方針を打ち出しています。そのため、平成十年度後半から「健全育成・自立支援活動（ふれあい・ふれんどしっぶ・プロジェクト）」として、全国のBBS活動の中から先駆的な活動をモデル活動に指定して援助を行うことにより、これらの活動を全国的に活発化させることとしています。

### 更生保護婦人会の活動

更生保護婦人会は、非行や犯罪をなくし、過ちを犯した人たちの立ち直りを支援するために立ち上がった女性ボランティア団体です。現在、全国津々浦々で約一千三百の地区会、約二十万人の会員が地域性を生かして、犯罪・非行防止活動、更生保護への協力活動等を展開しています。

更生保護に協力する活動としては、近年BBSと同じく、保護観察所の行う社会参加活動への協力

が盛んになってきました。

滋賀県では、更生保護婦人会員が、保護観察中の少年、保護司、BBS会員とともに特別養護老人ホームを訪れ、介護活動を行いました。最初は緊張気味であった少年が、お年寄りとのふれ合いの活動が進むと、輝いた目で車椅子の誘導をするようになりました。根気がなさそうにみえた少年が、なかなか口を開けようとしないお年寄りを相手に、時間をかけて一所懸命に食事の介護をしました。

更生保護婦人会は、少年非行の増大に対応して、昭和四十年代の後半から、非行防止活動の一環として、「ミニ集会」活動に熱心に取り組んでいます。これは、地域で少人数の集會を持ち、非行や子育てなどの身近な問題を話し合う活動で、昭和六十一年からは、全国更生保護婦人連盟では、「ミニ集



会モデル地区計画」を実施し、同活動を促進してきました。このミニ集会を通して、住み良い地域づくりのための新たな活動に発展していくこともあります。

鹿児島県・市来町更生保護婦人会では、平成八年度にミニ集会モデル地区に指定され、総勢三十人の会員で「みんなの力で明るい社会づくりをしましょう」とのテーマの下に活動しました。その中で、あるミニ集会を実施した際、自分たちの町にもテレクラなど子どもに悪影響を与えるポスターがあることが話題となり、それがきっかけで撤去運動が始まりました。警察や電柱を管理している電力会社などと連絡を重ね、県の土木事務所に「子どもの目にふれるポスターの撤去してほしい」との陳情をし、働きかけた結果、これらのポスター撤去を実現することができました。

近年、核家族化や都市化が進んだことにより、祖父母や近隣の子育て経験のある人たちと切り離されて、「孤立化した子育て」が行われるようになりました。また、少子化に伴って子育て経験が一回勝負となり、子育てが反芻はんそうされ次に生かされることが少なくなりました。

これらの状況は、育児ノイローゼによる無理心中や、歯止めのない子ども虐待といった問題を引き起こす社会的背景となつていくように思えます。子育てを支援するシステムが確実に必要となつていきます。

更生保護婦人会では、早くからこの問題に気づき、そのための取組として子育て中の若い母親を出席しやすいミニ集会に誘い、子育て経験者である更生保護婦人会員が相談に乗ったりアドバイスしたりする活動を行ってきました。さらに、最近では市町村などと連携し、子育て支援のネットワーク活

動を行うようになってきました。

宇都宮更生保護婦人会では、会員が栃木県教育委員会主催の「家庭教育オピニオンリーダー養成講座」を受講しています。

平成六年度から、市内の公民館で「三歳児と親のふれ合いスクール」が開講されるようになりましたが、そのスクールの講師として養成講座を修了したオピニオンリーダーが派遣されるようになりました。

更生保護婦人会も、ある公民館でのスクール実施を担当しました。カリキュラムの中には子育て相談だけでなく、父親も参加するプログラムを設ける工夫をしました。子育て相談では、会員はあくまで聞き役に徹し、自分の意見を押しつけないように心がけました。他のお母さんに、さりげなく「このように言っているけどあなたのところはどうですか」と話を向け、お母

さん同士が話し合うようにすると、悩んでいるのは自分ばかりではない、問題があるのも自分の子どもばかりではない、との思いで、気持ちにも余裕が生まれてきたようです。相談の内容によっては、行政機関や専門機関に問い合わせた上で返事をしました。

参加者に「お母さん自身変わったと思われるところがありませんか」と尋ねると、「子どもに對し寛大になった」「子どもを余裕を持つてみる事ができるようになった」「子育てに対する不安が多少消えた」「相談することで悩みが和らいだ」との感想が聞かれました。

このような子育て支援のための活動を更に充実させるため、全国更生保護婦人連盟では、平成十年度後半から子育て支援地域活動モデル地区活動を行っています。

(法務省)